

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月13日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザ テラス西田橋
所在地	鹿児島県鹿児島市西田一丁目11番1号 (電話) 099 - 213 - 0091
自己評価作成日	平成29年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年3月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「ゆっくり やさしく おだやかに」をモットーに、認知症があっても安心して生活できる家庭的な環境づくりや、個々に合わせた対応を行っています。認知症介護に対する知識などを養うため職員教育にも力を入れています。地域交流の面では、住み慣れた町内会の行事などへも参加しています。また、病院が母体にあるので、密接した医療連携を行うことができます。医師の訪問診療により、ホームにしながら、診療や薬の処方を受けることができます。また、機能維持の取り組みとして、併設の老人保健施設に通い、リハビリスタッフの評価の下、専門的な運動リハビリも受けることができます。利用者の楽しみごとの支援としては、毎月様々な行事を企画し、外出支援などを行いながら、気分転換を図っています。鹿児島中央駅が徒歩圏内にあるため、個別の買い物支援なども行うことができます。遠方在住のご家族にとっても、交通の便がよく、面会もしやすい環境にあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は2ユニットの構成である。母体医療機関や訪問看護ステーションが隣接し、24時間医療連携体制が整っており、訪問看護師による健康管理も行われている。
- ・利用者は併設の老人保健施設に通い、専門家による運動リハビリを受けている。
- ・トイレでの排泄や排泄の自立支援を行い、排泄用品の改善がみられ、トイレでの排泄の自立の事例がある。
- ・法人で町内会に加入し、六月灯など地域行事に参加する一方、法人の運営する「オレンジカフェ」に地域の人々の参加がある。認知症についての相談も受けるなど、日常的に地域と交流している。
- ・事業所の理念である「ゆっくり やさしく おだやかに」をモットーに、笑いヨガを取り入れたり、食べる力を養う口腔ケアや家族も一緒のレストランでの会食、希望による個人外出等、その人らしい生活の支援を行っている。
- ・職員は勤務年数が長く離職者も少ない。管理者は職員育成に力を入れて、資格取得に向けて支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当ホームは「ゆっくり やさしく おだやかに」を理念とし、利用者のペースに合わせた介護を職員一同意識しながら実践している。	理念は、フロアやエレベーター内に掲示、パンフレットにも掲載している。日々のケアの中で振り返り、理念を共有し支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との連携を図りながら、時には地域行事に参加させていただいている。また、地域の美容院やお店などを地域資源として活用している。	法人で町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を共有している。夏祭りや六月灯など地域行事に積極的に参加したり、事業所のイベントにも地域住民の参加がある。看護学生や実習生・ボランティアの受入れ等も行っている。地域のふれあい給食やオレンジカフェで講師を努めたり、認知症についての相談を受ける等、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	月に1回は、法人が運営するオレンジカフェに参加し、認知症予防の話しや運動などを行っている。また、時々には地域のふれあい会食やお達者クラブなどでも同様に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待についても、研修会を行い、虐待の定義や種類などの知識を身につけている。心理的虐待については、日頃から気をつけ指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年度は、介護職員の倫理やマナー等についての研修は行ったが、権利擁護についての詳しい研修は実施できなかったため、また次年度に計画したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は必ず管理者が行い、家族も理解しやすいような言葉選びや、不安等の聞き取りなどを行っている。また、何でも気軽に相談していただけるよう契約後のフォローも行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時は、こちらから積極的に声をかけ、心配や要望などが無いのか聞き取りを行っている。また、年に2回家族会を実施し、意見や要望などを聞いている。いただいた意見や要望へは、迅速に対応している。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き思いを把握している。家族からは面会や家族会・電話等で意見を聞く機会を作っている。年6回ホーム便りで近況報告をし、返信をもらっている。要望で、訪問歯科の対応を取り入れる等、意見を反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分の意思がしっかりと表出できる方は、要望に沿えるよう努力している。自分の意思を表出されない方も、気持ちをくみ取り支援に反映させている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情等から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を聞いたり、職員の居室担当者を中心に話し合い、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各々の居室は、在宅時の生活環境をできるだけ再現し、安心できる環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行能力や持久力など評価を常に行いながら散歩コースを決めたり、運動メニューを決めたりしている。精神状態に波がある方が多いので、その都度対応を工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン更新前には、ご家族に連絡し、要望を聞き取るようにしている。利用者の意向は、普段のコミュニケーションを通じて、アセスメントするようになっている。	本人や家族の意向を確認し、職員で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制加算を算定しており、訪問看護師といつでも連携が取れる体制である。定期的な訪問を行い、体調観察などを行ってもらっている。必要時は、主治医との連携も行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の医療従事者との情報交換を密に行い、治療状況や入院の期間などの把握に努めている。契約規定により1ヶ月しか部屋の確保ができないため、なるべく1ヶ月以内の退院をお願いしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の指針を説明し、同意をいただいた上で利用している。また、終末期に関する意向も書面にて確認している。看取りについては、一定の条件を提示しており、望まれる方に対し行っていくこととなっている。</p>	<p>契約時に重度化に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い終末期に関する意向も書面で確認し、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。職員の研修実施やバックアップ体制も整っており、看取りの事例もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員にも教育している。消防署の方によるAED講習会にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震発生時のマニュアルを作成し、職員や運営推進会議のメンバーやご家族等に周知している。避難訓練も定期的に行っているが、職員が冷静に対応できるよう教育が必要である。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、マニュアルを基に夜間想定での避難訓練と自主訓練を実施している。地震マニュアルも作成しスプリンクラーや緊急通報装置も設置している。災害用の水やレトルトのご飯・缶詰・カップ麺等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者を、認知症の方ではなく、一人の人格ある人間として対応し、プライバシー等にも配慮している。失禁や物忘れなどがあっても自尊心を傷つけないような声かけを心がけている。</p>	<p>マニュアルを基に研修会を実施し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。入浴やトイレ誘導・失禁時に、さり気ない声かけや羞恥心に対する配慮を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>衣類の選択やリハビリの参加・不参加など、本人の希望や意思を聞き取ってから行うように心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的には、利用者のペースに合わせた生活を提供しているが、入浴時間や食事の時間などはある程度統一させていただいている。居室で食事を提供する場合もある。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>認知症により、整容や更衣ができない方でも、その人らしさを大切に支援している。自分でできる方は、その方のこだわりを大切に、支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、できる範囲での動作を取り組んでいた。誕生日や行事などは、個人の要望に合わせたメニューを提供している。	法人の厨房で食事を作成している。個々に応じた食事形態を工夫し、ご飯や味噌汁・デザートはホームで作っている。準備や片付けなど利用者の力量に応じて一緒に行ったりしている。週末はホームでその日の利用者の状況に合わせて調理している。誕生食は希望の食べたいものを取り入れ、季節の行事食や外食等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日トータルで、十分な栄養や水分が確保できるようバランスの良い食事作りやおやつを提供を心がけている。必要に応じて食事形態の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、利用者の機能に応じた口腔ケアの支援を行っている。不十分なところは、介助を行っている。人によっては、訪問歯科による口腔ケアも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため、排泄パターンを把握した上でのトイレ誘導などを行っている。常にリハパンや尿パットの必要性を評価し、できるだけ使用しない方向で取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけをし、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。日中はほとんどが布パンツにパット使用である。リハビリパンツから布パンツに改善された事例がある。夜間はポータブルトイレを使用する場合もある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動をしっかりと行うように心がけ、便秘対策を行っている。できるだけ下剤に頼らないよう、乳製品や食物繊維を多く含んだ便秘に良い食品を提供したり、便秘に良い運動等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に、週3回の入浴を提供しているが、入浴日外でも足浴等を行っている。曜日や時間帯の希望は聞けてはいないが、入りたくない日などは、曜日を変更する場合もある。	入浴は基本的に週3回の午後であるが、個々人の体調や希望に沿って柔軟に対応し、入浴日外でも足浴等を行っている。入浴を拒む利用者にはタイミングを見て声かけしたり、無理強いせず別の日に変更したり、シャワー浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は、できるだけ個人の望む時間に合わせている。定期的な巡視などを行い、睡眠状況の確認なども行っている。眠れない方は、医師などに相談を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表などは常に介護記録と一緒に綴り、すぐに確認できるようにしている。作用や副作用の観察を行い、医師への報告も行っている。薬局の居宅療養管理指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの能力を見極め、それに応じた役割が持てるよう努めている。食器洗いや洗濯物たたみなども積極的にしていただいている。個別での散歩や買い物も実施し、ニーズに答えている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節の外出等は、定期的に集団で出かけ、気分転換を図っている。また、個別外出は、散歩時にお茶をしたり、アミュプラザで買い物をしたりしている。家族との外出も積極的に勧めている。</p>	<p>日常的には個々の希望で買い物や散歩に出かけたり、お茶飲みをしたり、駅の観覧車に乗って楽しむ等、戸外に出かけている。計画を立てて、初詣や花見・遠足・ドルフィンポート・ソーメン流し・地域の行事等に出かけている。家族の協力で外出や外食・墓参・法事等にも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人分のお金は、お小遣い程度は施設にてお預かりしている。個別外出等の際に、自分で会計ができる方はしていただいている。使用内容については、出納報告書を作成し、定期的にご家族に提示している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族等に電話をかけたいとの希望があれば、必要に応じて認めている。携帯電話の持ち込みも認めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、家庭的で温かみがあり、季節感が感じられる雰囲気作りを心がけている。室温や湿度などにも配慮し、過ごしやすい環境を提供している。トイレや浴室は常に清潔保持に努め、気持ちよく利用できるようにしている。	日当たりの良い明るいフロアは、採光や換気・温度・湿度に配慮し、空気清浄機が置かれ快適な室内環境となっている。壁には豆まき・おひな様のぬり絵や行事の写真を掲示し、季節感を大事にした飾りつけがされている。利用者はエレベーターを使って各フロアへ自由に出かけ、好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や、お互いの相性などを考慮し、席位置などを決めている。独りになりたいときや、静かに過ごしたい場合は、居室に案内したり、ソファなどでゆっくりと過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある品物や、こだわりの物等の持込を積極的に促している。人によっては、居室にテレビや配偶者のご位牌を置いている方もいる。	居室はベッドやタンス・エアコンが備え付けである。寝具や椅子・衣装ケース・テレビ・仏壇・写真・ぬいぐるみ等、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力に合わせた、声かけや介護を行い、それぞれのレベルで自立し、また機能維持できるように支援している。常に安全面を意識し、設備や対応を検討している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない